

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第33期 第1四半期連結 累計期間	第34期 第1四半期連結 累計期間	第33期
会計期間	自平成24年 11月1日 至平成25年 1月31日	自平成25年 11月1日 至平成26年 1月31日	自平成24年 11月1日 至平成25年 10月31日
売上高（百万円）	108,387	122,363	479,478
経常利益（百万円）	4,078	4,889	15,203
四半期（当期）純利益（百万円）	2,351	2,331	8,903
四半期包括利益又は包括利益 （百万円）	3,956	4,103	15,024
純資産額（百万円）	79,636	93,661	90,680
総資産額（百万円）	184,162	229,400	215,913
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円）	72.52	71.89	274.59
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（%）	37.9	35.5	36.6

- （注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間におきまして、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間におきまして、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、経済政策などにより緩やかな回復基調となりました。

海外旅行の動向は、外交問題や円安基調などの影響が依然として残りましたが、個人消費の持ち直しや、年末年始の大型連休が寄与し、堅調に推移しました。当第1四半期連結累計期間の日本人出国者数（日本政府観光局推計値）は、約412万8千人（前期比2.4%減）となる見込みです。国内旅行の動向は、LCCの浸透や路線拡充による利便性の向上、国内有数の観光地である沖縄旅行需要の高まりなどを背景に順調に推移しました。また、訪日外国人旅行の動向につきましては、引き続きタイなど東南アジア諸国の査証条件の緩和国を中心に増加したほか、中国からの旅行需要も回復を見せるなど、平成25年は1,000万人を越え、同期間の訪日外国人数（同推計値）は、約264万8千人（同32.0%増）の見込みです。

このような経営環境の中で、当社グループでは、「安全」と「安心」、「サービス」と「品質」の向上に努めつつ、日本国内及び海外での事業を拡大していくために、オリジナリティ溢れる各種の施策を展開いたしました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(旅行事業)

日本発の海外旅行事業については、新たなサービス施策としましては、自由旅行時の現地における安心を提供する人的サポートの「旅先コンシェルジュ」サービスの開始や学生の海外進出を応援する旅行代金の「出世払い」を導入いたしました。独自の旅行商品としましては、「バチカン美術館・システィーナ礼拝堂（バチカン市国）」など人気施設の貸切鑑賞プランを組み入れた商品や羽田空港発着枠増加に伴う新コースの造成、当社海外駐在員が自ら観光地やホテルなどへ足を運んで企画した「産地直送商品」の販売を開始いたしました。また、年末年始においては、チャーター便を積極的に活用するなど多くのお客様にご利用いただくことができました。販売チャネルにつきましては、生産効率を重視した営業展開を図り、広島パルコ、イオン富士南、ライフ佐倉など全国的にショッピングセンターを中心に新たな営業拠点を設けたほか、繁忙期の需要に応じた機動的な期間出店など、店舗網の拡充を引き続き実施いたしました。

インターネットを利用した取り組みとしましては、「航空券+ホテル」サイトにおいて、ホテルのお部屋タイプごとの画像表示や外部サイトとの連携を行ったほか、海外ツアー予約時のアレンジ範囲の拡張、LINEなどソーシャルネットワークサービスを活用して旬な商品を配信し、お客様との接点拡大、更なる利便性向上を図りました。国内宿泊予約サイト「スマ宿」においては、引き続き契約施設数や利用者数の増加に努めてまいりました。

団体旅行につきましては、販売の効率化を目的に専用システムの運用を開始するなど営業体制の強化を図り、大型団体旅行（企業の報奨旅行・各種イベント・修学旅行）の受注も増加し、好調に推移いたしました。法人旅行（企業出張）においては、取引先企業の出張需要が回復基調となり、堅調に推移いたしました。

そのほか、より内容の充実したご滞在プラン（観光内容やホテルグレードなど）を意識した高付加価値商品の販売も功を奏し、観光庁の取りまとめる主要旅行業者内の海外旅行取扱額において確実にシェアを上げることが出来ました。

国内全店舗にて販売を開始後、高い成長率を継続しております国内旅行事業につきましては、路線拡大に伴うLCCを利用したツアーや千葉の松戸や埼玉新都心など新たな発着地を増設したバスツアーなど、商品ラインナップの拡充を図り、引き続き好調に推移いたしました。

訪日旅行事業としましては、年末のチャーター便を利用したタイからの受客強化に努め、訪日外国人用の「旅先コンシェルジュ」を東京に設けるなど受入体制の強化を行いました。

海外における旅行事業は、現地発の旅行手配業務（海外アウトバウンド業務）、そして日本及び各国のお客様の受入業務（海外インバウンド業務）の両面にわたって、積極的に施策を繰り広げました。

海外アウトバウンド業務につきましては、需要が拡大している東南アジアのタイ・バンコク、インドネシア・ジャカルタにおける多店舗展開を引き続き促進し、流通網・集客力の強化を図りました。また、現地のお客様向けプロモーション活動も強化し、認知度向上も図っております。また、南アフリカのヨハネスブルグやペルーのリマなど未進出国への展開も積極的に行い、海外の営業拠点網は、54カ国、114都市、165拠点（平成26年1月末時点）へと拡大しました。各国における現地のお客様を対象としたオンライン予約サイトについても、39カ国41サイトで展開し、パッケージツアーや「航空券＋ホテル」販売サイトの構築を図るなど、海外アウトバウンド業務はアジア地域を中心に順調に拡大しております。

海外インバウンド業務につきましては、お子様連れ旅行の特別企画として、グアムにおいて子供のオプションツアーやレストランが無料になる「わくわくKidsパスポート」を開始するなど現地サービス向上に努めました。また、当社グループの海外拠点が有するサービスや設備を、他の旅行会社にもご利用いただけるよう、ホールセール営業活動である「B to B」事業の強化を行い、順調に推移しております。海外拠点間の送受客の一環として、ロシアの支店がウラジオストック発のグアム行きチャーター便を販売し、グアム支店が受客するといった新たな事業を進めております。そして、海外拠点が仕入・造成する海外ホテルの客室やオプションツアーなどの商品を、インターネット経由で日本や海外の旅行者へダイレクトに販売を行う「VACATION事業」においても、引き続き大手ホテルチェーンとのシステム接続を行い、取扱軒数が拡大しております。さらに、日本国内宿泊予約サイト「スマ宿」と連携し、予約サイトの拡充を図りました。

以上のような各種施策を展開した結果、当第1四半期連結累計期間における旅行事業は、売上高1,081億55百万円（前年同期比112.7%）となり、営業利益につきましては、21億31百万円（同100.4%）となりました。

(テーマパーク事業)

テーマパーク事業を運営するハウステンボス株式会社は、オンリーワン・ナンバーワンの価値を持ったイベントの取り組みとして「ガーデニングワールドカップ フラワーショー2013 in JAPAN」や新たに「世界一周植物園」の開園を行いました。また、大好評をいただいております1,000万球超のイルミネーション「光の王国」においては、3Dプロジェクションマッピングとイルミネーションが融合した「TFM スーパーイルミネーションショー3D」と光のスケートリンク「リンクファンタジア」を加えてバージョンアップするなど、引き続きお客様満足度の向上に努めてまいりました。また、大晦日の「カウントダウンイベント」もご好評いただき、12月単月の入場者数は、前期に続いて最多記録を更新いたしました。更に、初の場外展開イベント「大阪城3D マッピングスーパーイルミネーション」を、平成25年12月14日より大阪城西の丸庭園にて開催（平成26年2月16日まで）し、連日多くのお客様で賑わいました。その結果、業績は好調に推移し、当第1四半期連結累計期間の入場者数は74万8千人（前年同期比113.1%）、売上高66億48百万円（前年同期比126.5%）、営業利益23億2百万円（同167.2%）となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間におけるハウステンボス株式会社の単独業績（平成25年10月から平成25年12月まで）は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第1四半期 (自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)	当第1四半期 (自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)	前年同期比	対前年同期 増減額
入場者数 (うち、海外客数)	661千人 (26.8千人)	748千人 (46.8千人)	113.1% (174.4%)	86千人 (19.9千人)
取扱高	5,522	7,083	128.3%	1,561
営業利益	1,352	2,286	169.1%	934
経常利益	1,562	2,511	160.8%	949

(九州産交グループ)

九州産交グループでは、主力事業であるバス事業において「ひのくに号deFUKUOKA体験きっぷ」や「黒川湯めぐりきっぷ」の発売を開始するなど、お客様の利便性向上への取り組みを実施し、売上高は69億67百万円（前年同期比105.3%）、営業利益4億28百万円（同87.9%）となりました。

(ホテル事業)

ホテル事業につきましては、グループ間送客を一層強化したほか、各ホテルにおいてお客様満足や収益性向上に努めた結果、売上高13億2百万円（前年同期比124.8%）、営業利益64百万円（同532.5%）となり、増収増益を達成いたしました。

(運輸事業)

前期に設立した国際チャーター専門会社のASIA ATLANTIC AIRLINES CO., LTD. は、平成25年8月に成田国際空港―バンコク・スワンナプーム空港線に初就航し、継続して同路線の運航を行いました。運輸事業の売上高につきましては8億14百万円、営業損失2億55百万円（前年同期は営業損失2億17百万円）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高1,223億63百万円（前年同期比112.9%）、営業利益40億87百万円（同125.2%）、経常利益48億89百万円（同119.9%）、また四半期純利益におきましては、ハウステンボス株式会社の繰越欠損金が解消することにより税金費用が増加し、23億31百万円（同99.1%）となりました。

金額はセグメント間取引を含めております。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。